



## ハコベ

*Stellania media*

〈ナデシコ科〉

日本全土のいたるところで見られる一年草ないしは越年草で、有史以前に渡来した史前帰化植物とされる。春の七草の一つであるが、一年中発生する。新撰字鏡(昌泰年間 898~901)「波久邊良」や現存する最古の本草書である本草和名(延喜年間 901-923)に「波久倍良」の名が挙げられるが、語源は不明。漢名は繁縷。

葉や茎が柔らかいことから味噌汁の具やおひたしに使われる。江戸時代には、炒ったハコベの粉と塩を混ぜたものを「はこべ塩」と呼んで歯磨き粉とした。歯槽膿漏や歯茎の出血予防となる。(田中良明)

ハコベ 富樫信平 画 1990.3.28 新潟県荒川町産



企画展示

# お江戸の華 —第八回古典園芸植物展—

平成21年 1/6(火) - 2/1(日)

江戸時代、日本の園芸は世界的に類を見ないほどの発展を遂げました。日本では、西洋で行われるような交配による育種ではなく、突然変異により現れる「変わり花」や「変わり葉」といった通常とは異なる形態を見出し、保存、育成することで多くの品種が生み出されました。この選入りや枝垂れなど奇妙に変化した「芸」と呼ばれる形状は江戸時代に珍重され、植物ごとに専用の鉢や独自の展示方法で観賞されました。今回の展示では、その観賞方法、独特な美意識や価値観により生み出された古典園芸植物を展示、解説し、その魅力をじっくり味わっていただけます。



ももか 新潟県作出品種

# チューリップ展

3/4(水) - 4/5(日)

企画展示

チューリップが日本へ入ってきたのは江戸末期のことです。その後大正初めには、新潟市秋葉区の小合地域でチューリップ球根の商業生産が初めて行われるなど、新潟でのチューリップ生産には古くからの歴史があります。現在多くの園芸品種が栽培されますが、新潟でも新品種が作り出されています。今回の展示では新潟県でのチューリップ栽培の歴史とともに、県内の育種の取組みをお伝えします。また、会場は県内で生産されたチューリップを使って華やかに彩られます。小型で繊細な印象の野生種のチューリップも含め、期間中200品種2万本を越えるチューリップの祭典を是非お楽しみ下さい。





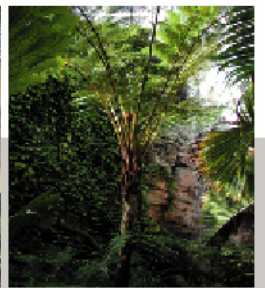
ヤエヤマヒルギの気根(支柱根)



カシノキラン *Saccolabium japonicum* とその気根(吸水根)



ビヨウタコノキの気根(支柱根)



ヒカゲヘゴ *Cyathea leptifera* とその気根(保土根) 吸水や保温の役割も持つ

## 園内 ウォッチング

### 企画展示

## アザレア展

2/4(水) - 3/1(日)

毎年、寒々とした冬景色の中、この時期の植物園の温室はアザレアの花で埋め尽くされ、大勢の方々からご来園いただいています。アザレアの自然開花は5月頃ですが、植物園では、12月下旬から展示に向けて本格的な加温を始めます。

19世紀からプラントハンターによって、タイワンヤマツツジや日本で作出されたツツジの園芸品種がヨーロッパへ渡り、ベルギーを中心に改良が行われ花が豪華なアザレアとして生まれかわりました。今年のアザレアの生育は順調ですので、みごとな花が咲くと思われます。ぜひ、ご来園ください。



## きこん 気根

## 温室

熱帯植物ドームには、ガジュマル (*Ficus microcarpa*) やビヨウタコノキ (*Pandanus utilis*) など、根が地中ではなく空気中に伸びている樹木が見られます。根は、体の支持や水や養分の吸収などを行う器官で、通常は地下にありますが、このように空気中にある根は気根と呼ばれ、樹木だけでなく草やつるなど様々な植物に見られます(表参照)。

ガジュマルやビヨウタコノキの気根(支柱根)は体を支えるのが主な役割ですが、その他にも様々な役割を持つものがあります。ヤエヤマヒルギ (*Rhizophora mucronata*) などマングローブ(熱帯・亜熱帯地域の海岸湿地林)に生育する植物では、気根(支柱根または呼吸根)は潮に流されないように体を支えるだけでなく、泥の中で酸素が不足がちになる根に酸素を送る働きもあります。また、熱帯に分布するラン科の着生植物は、気根で樹皮にくっつく(付着根)だけでなく、根被で空中の水分を吸収する(吸水根)役割もあるため、乾燥が激しく水分を保持できない木の上でも生きていけるのです。(久原泰雅)

### ●気根の様々な種類

名 称	役 割	例
呼吸根	酸素の乏しい環境で呼吸する	オヒルギ、サキシマスオウ(板根)、ヌマスギ
支柱根(支持根)	体を支える	ガジュマル、タコノキ、フタバガキ科
保土根	幹を覆い保護する	ヒカゲヘゴ、ディクソニア属(タカフタバ科)
付着根	他物にはりついて体を支える	ツタ、ツルアジサイ、ノウゼンカズラ
吸水根	根被を生じて空中の水分を吸収する	アンズリウム属(サイモ科)、ラン科
同化根	光合成を行う	クモラン、カワゴケツウ科
根針(根刺)	刺状の根が体を保護する	クリソフィラ属(ヤシ科)、モラエア属(アヤメ科)

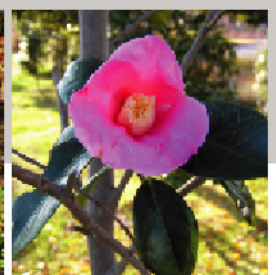
## ツバキ

## 園地

ツバキの野生種(ツバキ属 *Camellia*)は、日本を含む東アジア、東南アジアに分布し、約250種が知られています。日本には、ヤブツバキ、ユキツバキ、サザンカ、ヒメサザンカの4種類が自生します。ツバキは花を觀賞するほか、薪炭材として、また、実から椿油をとるなど、利用価値の高い植物として利用されてきました。16世紀後半の室町時代末からはツバキの觀賞が盛んになり、17世紀江戸時代初期に江戸、京都、肥後、加賀など各地でさまざまな園芸品種が作出されました。当園のツバキ園では、ヤブツバキの園芸品種約50品種が12月から4月下旬まで次々と花を咲かせます。また、園内には故萩屋薫新潟大学名誉教授より寄贈された交配種約800株も植栽されています。これらのツバキには名前が付けられていませんが、ピンクなどのやさしい花色、香りのある花、枝垂れなどの特徴がある珍しいツバキを觀賞することができます。(橋本 永)



萩屋名誉教授より寄贈されたツバキの交配種



ヤブツバキ '艶艶助'

## NEWS 1

### 10周年記念フェスティバルを開催

当園は平成10年に開催された「にいがた緑のものがたり'98 第15回全国都市緑化フェア」の新津会場となった後に正式開園し、12月1日で10周年を迎えました。

10周年記念日に先駆け、10月4日(土)、5日(日)に10周年記念フェスティバルを開催しました。シーボルト園では、新潟県主催の10周年記念植樹が行われ、開園時に日蘭友好の証としてライデン大学附属植物園から寄贈された「シーボルトの里帰り植物」(江戸時代にシーボルトがオランダに持ち帰ったケヤキ・イロハモミジ・クヰミ)など計8本を地元の金津小学校の皆さんと一緒に植栽しました。

また、この2日間には「100円入館デー」を実施したほか、バックヤードツアー、ツリークライミング教室、植物素材を使った体験教室、趣味の園芸の元キャスターである柳生真吾さんの講演会、植物や食品の販売などを行い、園内は多くのお客様で賑わいました。(大谷史絵)



「シーボルトの里帰り植物」を植樹



花のカルチャープラザ体験教室

入館者  
70万人  
達成

12月1日の10周年記念日直前の11月21日(金)に、当園は温室入館者累計70万人を達成し、記念品の贈呈式を行いました。

悪天候の中お迎えした70万人目のお客様は石川県七尾市からお越しの寺野様でした。「びっくりしました! 外は寒くて荒れ模様の天気ですが、思いがけないプレゼントに心はホットになりました」と嬉しい言葉をいただきました。

これまでの10年、多くの皆様にご来園いただき、感謝申し上げます。今後も100万人、200万人目のお客様をお迎えできるよう努めてまいります。引き続きのご愛顧をよろしく願いたします。



園長からの記念品贈呈に続き、植物園サンタからもプレゼント

## NEWS 2

### 絶滅危惧植物展

—市民とすすめる絶滅危惧植物の保全—

今、世界では1年間に4万種、自然状態の100倍から1,000倍という非常に速さで生物が絶滅しているといわれています。そのため、様々な国際的な取り組みが行われています。植物園は多種多様な植物を系統的に栽培してきた歴史があります。日本植物園協会では、この特徴を生かし、全国の植物園や市民大体と共に植物種多様性保全ネットワークを組織し、絶滅危惧植物の植物園内での保全(生息域外保全)、自生地での保全(生息域内保全)、教育、知識の普及等の保全事業を行っています。

新潟県立植物園では、植物園協会の「植物種多様性保全拠点園」の認定を受け、全国の植物園の中核として保全事業に取り組んでいます。しかし、保全活動は植物園の枠内だけで行えるものではなく、多くの方々の理解と協力が必要となります。また、保護活動がさかんになる一方で、移植や植え戻しなどによる自生地の破壊につながりかねない行為も問題になっています。

今回の絶滅危惧植物展は、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて、日本植物園協会と当園の主催で、保全のあり方や方法を紹介すると共に活動への協力を呼びかけるものとなりました。保全活動について、今後も紹介を行いますので、皆様の協力をお願いできればと思います。(久原泰雅)



当園での種子保存の状況



展示状況

## NEWS 3

### 地域の方々から協力を得て

11月15日(土)、エントランス花壇にチューリップ約15,000球、パンジー約400株を、新潟商工会議所、園芸福祉にいがた、当園のボランティアの皆さんの総勢60名で植栽しました。当日は、幸い天候に恵まれ、さわやかな汗を流すことができました。当初は9時から12時までの作業を予定していましたが、参加された皆さんが手際よく作業をすすめ、11時には植栽が全て終了しました。パンジーはこれから春まで、チューリップは来春のゴールデンウィーク頃に綺麗な花を着けるでしょう。参加された皆さんありがとうございました。(橋本 永)



植え付けの様子。チューリップが咲く頃が楽しみです



寒い冬でも花をつけるパンジー

平成21年度「新潟県立植物園ボランティア」募集  
詳しくは裏表紙をご覧ください



ツリークライミング®の様子。当日は温室内で行います



上から見た温室



展示状況



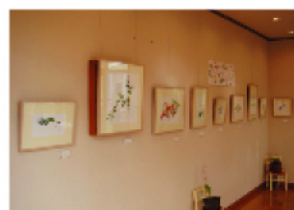
パフィオペディルムの展示コーナー

## NEWS 5

### 第6回 洋らん展 2月4日(水)―8日(日)

当園での洋らん展は今年で6回目を迎えました。県内の愛好団体(新潟愛蘭会、新潟らん友会、柏崎カトレヤ会、上越洋蘭愛好会)や愛好家が栽培したラン200鉢以上を熱帯植物ドームの中で展示し、愛好家による展示としては県内で最大の規模となっています。

冬の寒い時期に、暖かい温室で豪華で色鮮やかなランの花々を楽しめるだけでなく、県内のラン栽培について知る良い機会になると思いますので、是非足をお運び下さい。



昨年の展示の様子



外山先生による展示風景

## NEWS 6

### 「外山康雄 野の花の水彩画展」 今年も開催

今年度はNHK趣味の園芸ビギナーズ12月号で講師をつとめられるなど活躍の外山先生の水彩画展示を、3月4日(水)から3月22日(日)まで観賞温室第3室にて開催します。是非お出かけください。

## NEWS 4

### 熱帯ドームの木々を上からウォッチング ―ツリークライミング® 特別教室を行います―

熱帯ドーム温室で、ツリークライミング®特別体験教室を行います。ロープを使って上に登り、普段は下から見上げるだけの熱帯樹木を間近に観察することができます。またとない機会ですので、是非ご参加下さい。

実施日●1月31日(土)、2月1日(日)

実施時間●10:00～、11:00～、13:00～、14:00～、15:00～  
1回当たり50分程度

定員●各回5名

参加費●無料・但し温室入館料が必要です

お申し込み●新潟県立植物園 0250-24-6465

※事前申し込みが必要ですが、空きがある場合は、当日も受け付けます。

講師●原 淳一(ツリークライミング® ジャパンファシリテーター、  
秋葉山自遊会代表、新潟市内造園会社)

当日は観賞温室発券カウンターで受付を行います。

開始5分前には受付を済ませて下さい。



オオミスミソウは同じ自生地内でも花色を中心とした変異が大きい(県内自生地にて)



佐州図上の雪割草の図

新潟県の草花として指定された雪割草。多様で豊かな新潟の自然やその環境の保護の象徴として、ふさわしいものです。

雪割草が本邦の書物に初出するのは、佐渡産の植物などを記録した『佐州図上』(1730以前)だとされます。ここには「獐耳細辛雪ワリ」とあり図が描かれ、「比ゆきわ里ハ山野に生し、又湿地に叢生す。長さ数寸葉は碧綠色三岐にして乱篠あり。正月二月の際小花をひらく。紅白紫の數品あり、花色図の如く。四五月に至て莢をなし実をむすぶ、そのかたちけしの如し」と解説が付されています。

このように古くから新潟県とは縁の深い植物ですが、環境省と新潟県共に準絶滅危惧とされています。本県に分布する雪割草は観賞価値が高く、地域ごとに花色、花形、葉形、葉の模様の特徴があり、またそれぞれの産地内でも形質の変異が大きいことが知られています。これらの野生種は、現在の園芸品種のもととなった地域の重要な遺伝子資源です。

この重要なオオミスミソウの自生地を守っていくためには、自生地の環境を守り、また盗掘や動物の食害を防ぐことはもちろんですが、地域や自生地集団の遺伝子のかく乱を招く恐れの高い、植え戻し(野生復帰)に注意を払うことが必要です。自生地にはその地に生育する適当な個体数があり、また他の生物と共存していますので、人の目を楽しませることを目的とした植え戻しは避けなければなりません。園芸品種や由来の分からない栽培品、それらから採取した種子由来の植物、異なる産地の個体を用いることは、例え同種であっても、遺伝子のかく乱を招き、自生地を破壊することになります。一度、失われた種は人間の手ではつくりだすことはできません。永遠に失われてしまうのです。(倉重祐二)

## 新潟の植物

### 雪割草(広義のミスミソウ)

*Hepatica nobilis var. japonica (s.l.)*

ユキノシタ科

## 新潟の天然記念物

### 阿賀町の将軍杉

国道49号沿いの民家の間の道を登ると、若い杉に囲まれるように将軍杉がそびえ立っています。

推定樹齢1,400年、幹周19.31m、樹高約40mの巨木で、昭和2年に国の天然記念物に指定されました。樹の周囲には木道が設置され一周することができます。根元近くの幹は6本に分かれ1本は台風で折れてしまいましたが、所々に外科的な処置が施され十分に保護されていることが窺えます。

将軍杉の名は、晩年をこの地で送ったという陸奥鎮守府将軍 平惟茂(むつ ちんじゆふ)にちなんでおり、傍には墓碑が立てられています。また、水運で生計を立てていた村人が将軍杉を伐採して船を造ろうと計画したところ、樹が一夜にして地面に沈んだため、それ以来手厚く保護するようになったとされます。

真夏に訪れた際には、将軍杉の周りには夏と思えないほどひんやりとした空気が流れ、別世界に足を踏み入れたかのような印象が強く残っています。

(永井明子)



将軍杉への入口



木漏れ日は差すが周囲の空気は冷たい



19m余りの幹周をもつ将軍杉

# 友の会通信

友の会では、秋にも様々なイベントを開催しました。キノコ観察も紅葉観賞も良い時期に開催でき、また10周年記念のイベントも参加者が多く大盛況でした。



山伏山山頂のヤドリギ



秋山郷の風穴で見られたエゾスグリ



栄村植物園での観察会



蚕飼育に使われていた風穴

## ●秋の植物観察会

10月18日(土)、19日(日)に新潟県津南町と石澤会長の郷里、長野県栄村での観察会を今年も開催しました。

一日目は、津南町の山伏山に行き風穴地に見られる北方系、亜高山性の植物を観察しました。宿は北野天満温泉で、近くには会長が手がけている植物園(開園準備中)があり、栄村に分布する様々な植物の植栽について詳しく説明していただきました。

二日目は秋山郷に向かいました。紅葉まっさかりで、バスの中から秋山郷のすばらしい景色を眺めながら、最奥地のエラクボ平周辺へと向かいました。ここにも多くの風穴が存在し、その中に見られるエゾスグリやエゾヒョウタンボクなどの特異的に出現する植物を観察することができました。(講師:石澤進会長)

## ●キノコ観察会と試食会

10月25日(土)に毎年恒例となったキノコ観察会と試食会を行いました。新潟市小須戸地区の大沢公園での観察会では、様々なキノコが見つかり、講師の小池忠一先生より食用キノコのや毒キノコについての解説を受けました。その後は、採集したキノコや小池先生からご用意いただいたキノコで料理を作り、秋の味覚を楽しみました。



観察会の予習



収穫したキノコを確認



フリタケ



アマタケ

## ●クリスマス交流会

12月23日(火)に皆で集まり植物の交換や今年の活動報告を行った後、植物園で開催したゴスペルコンサートを鑑賞しました。今年度の結果報告があった他、来年の計画についての話も弾みました。

新潟県立植物園  
友の会  
会員募集

友の会会員を常時募集しておりますので、植物園までお問い合わせください。

### 会員特典

- 観賞温室入館料無料
- 植物園だより、友の会ニュースレター、各種イベント案内の送付
- 研修旅行、企画旅行などイベントへの参加

### 年会費\*

- 個人会員 ..... 2,000円
- ファミリー会員 ..... 2,500円  
(同居の家族は何人でもご利用できます)
- 賛助会員 一口 ..... 10,000円

※4月より翌年3月まで

展示

観賞温室第2室 企画展示

- 1月6日(火)～2月1日(日)「お江戸の華  
—第八回古典園芸植物展—」
- 2月4日(水)～3月1日(日)「アザレア展」
- 3月4日(水)～4月5日(日)「チューリップ展」

観賞温室第3室 住宅内展示

- 1月14日(水)～2月1日(日)「ひょうたん展」
- 3月4日(水)～3月22日(日)「外山康雄 野の花の水彩画展」

観賞温室第3室 特別展示

- 2月4日(水)～2月8日(日)「第6回洋らん展」
- 2月14日(土)～3月1日(日)「クリスマスローズ展」
- 3月4日(水)～3月8日(日)「ポケ展」
- 3月7日(土)・8日(日)「池坊新潟支部地区展」
- 3月13日(金)～3月15日(日)「雪割草展」

教室

花と緑の教室 会場:花と緑の情報センター

※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

- 1月25日(日) 10:00～11:30 ●「冬芽観察ツアー」  
講師:久原泰雅(県立植物園職員) 定員:20名 参加費:無料
- 2月1日(日) 10:00～15:00 ●「seedPod Kids 冬芽観察ツアー」  
講師:橋本 永(県立植物園職員)・アップルジャパン(株)スタッフ  
対象:小学生4年生～6年生(保護者の同伴が必要)  
定員:15名 参加費:無料
- 2月8日(日) 10:00～11:30 ●「デンドロビウムをきれいに咲かせる」  
講師:細川傳一郎(細川洋蘭農園) 定員:40名 参加費無料
- 2月15日(日) 10:00～11:30 ●「アザレア—栽培と観賞」  
講師:倉重祐二(県立植物園副園長) 定員:20名  
参加費:無料(別途入館料が必要です)
- 2月22日(日) 10:00～11:30 ●「クリスマスローズ」  
講師:未定 定員:30名 参加費:無料
- 3月15日(日) 10:00～11:30 ●「雪割草の品種紹介と栽培方法」  
講師:本間秀晃(花工房ほんま) 定員:30名 参加費:無料

図書のご案内 ※温室入館券売場にて販売しています。



「里山の植物」  
2,000円  
新津丘陵に植生する植物の大図鑑。約800種の豊富な里山の植物の魅力を再発見。



「ようこそ緑の夢王国 新潟県立植物園」  
1,200円  
新潟日報夕刊に連載された内容をまとめた一冊。植物に親しみきっかけに、植物園観賞のお供にぜひいかがですか。

●観賞温室利用案内

開館/9:30～16:30(入館締切16:00)  
入館料/大人600円、シルバー(65歳以上)500円、小中学生100円  
※土日祝日は小中学生の入館料無料です。

●観賞温室開館カレンダー (●休館日・1月5日まで年始休館)

1	2	3
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
・ ・ ・ 1 2 3	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
4 5 6 7 8 9 10	8 9 10 11 12 13 14	8 9 10 11 12 13 14
11 12 13 14 15 16 17	15 16 17 18 19 20 21	15 16 17 18 19 20 21
18 19 20 21 22 23 24	22 23 24 25 26 27 28	22 23 24 25 26 27 28
25 26 27 28 29 30 31		29 30 31 . . . . .

●交通アクセス ※駐車場無料(350台収容)

高速道路/磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分  
一般道路/(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分  
J R/信越線古津駅から徒歩約20分  
バス/区バス:新津駅東口から「うららこすど」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分  
新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分

わくわく植物探検ツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!

- ①10:40～ ②14:40～  
(土・日・祝日は13:40からも実施)  
※当日温室券売券カウンターにて受付(定員制)

また、ご自分のペースで解説付きの見学をお楽しみになりたい方には、携帯音楽プレーヤーiPodを使った展示解説「seedPod(シードポッド)」もご用意しています。温室の入館券売場でプレーヤーを貸し出ししていますので、ぜひ一度お試しください。(無料・身分証明書必要)

花と緑の相談コーナー

専門相談員の片山芳宣先生がわかりやすくお答えします。

- ・相談受付日:毎週水曜、日曜
- ・ご相談は直接相談コーナーへ。(観賞温室内無料エリア)
- ・電話でも受け付けています。専用電話 0250-24-6437

平成21年度

「新潟県立植物園ボランティア」募集

植物園の園地、温室の植物管理作業、観賞温室の植物解説、植物標本や図書の整理はボランティアの皆さんの活動に支えられて運営されています。あなたも植物園の一員として私たちと一緒に活動しませんか。

健康で植物が好きなお方であれば、どなたでも参加できます。

応募資格は特にありませんが、事前に説明会に参加し、登録していただく必要があります。下記のとおり説明会を行いますので電話でお申し込みの上、ご参加下さい。

説明会開催日●平成21年3月15日(日)、17日(火)  
13:30～ 1時間程度  
会場●花と緑の情報センター2階



新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地  
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410  
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp  
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/  
指定管理者 財団法人 新潟県都市緑化センター



登録範囲は、事務局、鳥屋野潟公園事務所、紫雲寺記念公園事務所、県立植物園です。

